

今回の「紫金山・アトラス彗星」のような、肉眼でも見えるような明るい彗星は、めったに出現しません。良い写真が撮れるのも、太陽に近づいて尾が伸びているせいぜい1～2週間です。その間に、どんなロケーションで撮影するかが勝負になります。

虚空に浮かぶ彗星だけを撮影したいなら、空の暗い場所ならどこでも構いません。しかしせっかく地平高度が低い彗星なのですから、私は地上の風景をうまく入れた「情景的な彗星写真」を残したいと思いました。大学生の頃から思い出の多い、狭山湖で撮影したいと思ったのです。事前に彗星の軌道や方位をものすごく細かく計算し、狭山湖のシンボルの「取水塔（しゅすいとう）」の右上に彗星が来る位置を、1メートルの誤差もなく特定しておきました。その結果、貯水池の築堤の左（南）から2番目の石の欄干とわかりました。当日は長い築堤に数十本もの三脚がズラリと並んでいましたが、ほとんどの人は貯水池が見渡せる築堤の真ん中に集中してしま



た。おかげで、私が狙っていた「第2欄干」は「空席」でした。

狭山湖自体には人工光は少ないのですが、貯水池のある狭山丘陵は市街地に囲まれていて、天体写真の撮影には決して良い条件ではありません。しかも、結構雲が出ていて、彗星は現れたり消えたりを繰り返していました。それでも150枚ぐらい撮影したうちの1枚が、まさしく狙っていた通りの位置に彗星が現れ、やったー！と思いました。誰が見ても「狭山湖から見た彗星」とわかる写真です。

彗星観望はいわば大イベントなので、同じ目的の人が大勢集まります。当然約束をして集まったわけではなく、みな初対面なのですが、30秒で意気投合してしまいます。今回も何か所かのロケーションで、名刺やアドレスの交換をして、実にたくさんの友人ができました。彗星が結んだ縁だと思います。本当にありがたいことだと思いました。

(2024年10月15日
埼玉県所沢市狭山湖築堤)